

鉄の道具の登場

弥生時代になると鉄で作った道具である鉄器てつきが使われ始めます。しかし、鉄は、日本に伝わったばかりで、まだ数が少なく貴重だったので、それまで使っていた石で作った石器せつきという道具も多く使われています。弥生時代の終わりごろになって、ようやく鉄の道具が多く使われるようになります。

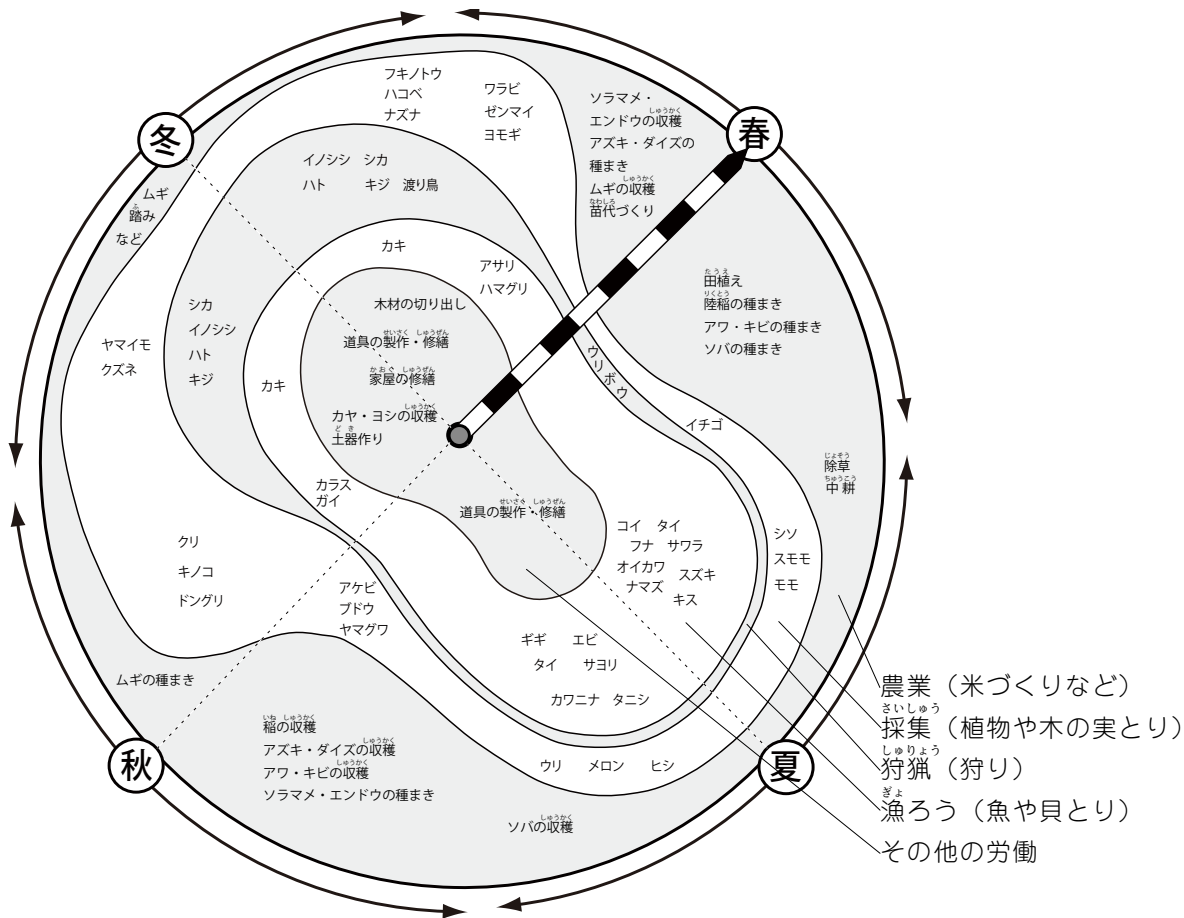
☆ 展示を見ると、石斧せきふと鉄斧てつぶの切れ方はずいぶん違うことがわかるよ。それぞれの切れ方について、□に絵を、[]に感想を書いてみよう。

☆ 石斧せきふは鉄斧てつぶにくらべてずいぶん重かった。道具の重さが重いのと軽いものとは、1日に切れる木の量はどちらが多いかな。○をしよう。

1日に切れる木の量は、道具が（ 重い ・ 軽い ）ほうが多い。

やよいじん
弥生人の1年

弥生時代は、今よりも食べ物を手に入れるのに多くの時間がかかりました。また、冷蔵庫など保存するものがないので、人々は季節ごとに、よくとれる食べ物をとって暮らしていました。



弥生の人たちがしていた労働を季節ごとに見てみよう。労働の量は農業・採集・狩猟・漁ろうなどに分けているよ。例えば、春にいちばん多い労働は農業、2番目が漁ろうになるよ。



☆ 弥生時代の人たちが、点線でしめした春夏秋冬のそれぞれの季節に、「その他の労働」以外で、もっとも多くしていた労働は何かな。

- 春 (農業)
- 夏 ()
- 秋 ()
- 冬 ()